

# 本文章已註冊DOI數位物件識別碼

- ▶ 「～は何ですか」に対する回答文の形式一日中対照研究の視点から－

doi:10.29714/TKJJ.200205.0007

淡江日本論叢, (11), 2002

作者/Author：鍾慈馨

頁數/Page：135-143

出版日期/Publication Date：2002/05

引用本篇文獻時，請提供DOI資訊，並透過DOI永久網址取得最正確的書目資訊。

To cite this Article, please include the DOI name in your reference data.

請使用本篇文獻DOI永久網址進行連結:

To link to this Article:

<http://dx.doi.org/10.29714/TKJJ.200205.0007>



*DOI Enhanced*

DOI是數位物件識別碼（Digital Object Identifier, DOI）的簡稱，是這篇文章在網路上的唯一識別碼，用於永久連結及引用該篇文章。

若想得知更多DOI使用資訊，

請參考 <http://doi.airiti.com>

For more information,

Please see: <http://doi.airiti.com>

請往下捲動至下一頁，開始閱讀本篇文獻

PLEASE SCROLL DOWN FOR ARTICLE



# 「～は何ですか」に対する回答文の形式

## —日中対照研究の視点から—

淡江大学専任講師

鍾慈馨

### 一. はじめに

日本語の主題を表す「は」の構文は、叙述部に主題について述べる文ではいろんな形で表される。

- (1) 趣味は映画鑑賞です。
- (2) 趣味はいろいろあります。
- (3) 趣味はたいへんひろいです。
- (4) 趣味は映画を見ることです。
- (5) \*趣味は映画を見る。

しかし、文(4)のように叙述部に動詞が現れると必ず「こと」のようなものが出てくる。このような文の述部には必ず決まった文法形式が使われていると思われる。この論文では、日本語の主題を表す「は」の構文において、「～は何ですか」に対する回答文にどのような基本形式があるのか、そして、それに対応する中国語の文ではどんな文法構造をしているのか、日中言語のこの構造上の違いによって、中国語を母語とする学習者に、どのような使用傾向が現れるのかを明らかにする。

### 二. 日本語の主題を表す「は」の構文

#### 1. 文の種類

主題「は」の構文の叙述部が主題の属性、状態を表したり、主題に関係のある出来事や動作を表す場合、叙述部の観点から分類すると、名詞文、形容詞文、動詞文の三つに分けることができる。

##### 名詞文

- ・あの人は林さんです。
- ・あの建物は学校です。

#### 形容詞文

- ・あの人はやさしいです。
- ・あの人は親切です。
- ・あの建物は高いです。
- ・あの建物は立派です。

#### 動詞文

- ・あの人は台北へ行きます。
- ・あの建物は来年建てなおされます。

それぞれの文は最初質問文があり、その回答文として成り立つとする。

例えば、

#### 名詞文

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ・あの人は誰ですか。  | →あの人は林さんです。 |
| ・あの建物は何ですか。 | →あの建物は学校です。 |

#### 形容詞文

- |              |              |
|--------------|--------------|
| ・あの人はどうですか。  | →あの人はやさしいです。 |
| ・あの人はどうですか。  | →あの人は親切です。   |
| ・あの建物はどうですか。 | →あの建物は高いです。  |
| ・あの建物はどうですか。 | →あの建物は立派です。  |

#### 動詞文

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| ・あの人はどうしますか。   | →あの人は台北へ行きます。     |
| ・あの建物はどうなりますか。 | →あの建物は来年建てなおされます。 |

名詞文において、叙述部は主題は何ものだ、或いは何ごとだと主題の名詞の本質を表す。形容詞文においては、叙述部は主題の性質、状態などを表す。それから、動詞文において、叙述部は主題に関係のある出来事や動作を表す。

## 2. 「～は何ですか」に対する回答文<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> 本稿で述べる「～は何ですか」の「何」は疑問代名詞の代表として使用されるもので、他の疑問代名詞（「いつ」、「だれ」、「どこ」）と置き換えることができる。宮地 裕(1982)疑問詞『日本語教育事典』を参照。

主題「は」の多くの構文の中で、質問文「～は何ですか」に対して、その回答文として叙述部が主題の本質を説明するような文の場合は、普通名詞の名詞文か、主題と呼応するように述語に「もの」、「こと」、「の」、「から」など形式名詞か、或いはその他の記号が用いられる文で表現される。「～は何ですか」の質問文に対する回答文と想定できる例文を次のように並べた。

① 普通名詞文

- ・ この本は日本語の教科書です。
- ・ あの人はこの大学の学生です。
- ・ あの電車は淡水行き(の電車)です。
- ・ この村でプーエという踊りが催されているのでした。これは大勢の少女が一しよに踊る楽劇で、踊子たちは豪華な衣装をつけて、手足をまげ身をくねらせて、音楽にあわせて、夜明けまで踊るのです。(ビルマの豎琴)
- ・ お若い帝のご趣味は絵であった。(新源氏物語)
- ・ 内容は全面的受諾の吉報であった。(パニック・裸の王様)
- ・ コブラは毒蛇ですが、音楽がすきで、さまざまな芸当をします。(ビルマの豎琴)

② 形式名詞文<sup>2</sup>とその他の文

- ・ 二人の約束は一年後同じ場所で再会することです。
- ・ あの人の自慢は大学四年間を通じて、無遅刻無欠席だったことです。
- ・ 今年は胴着を作って入れておいたが、胴着は着物と襦袢の間に着るものです。(檸檬)
- ・ このびんろう子というのは、びんろうという木の実で作ったもので、南方の人はチューインガムのようにいつもこれを噛んでいるのですが、そうすると口の中が真っ赤になって、歯も唇もきみわるく染まるのです。(ビルマの豎琴)

---

<sup>2</sup> 本稿で言う「形式名詞文」とは、動詞、形容詞、名詞、指示詞或いは文に形式名詞が付き、その後に文末の助動詞がついて、文の叙述部の文として成り立つものを指す。

- ・今でこそ、ジルバなどという時代おくれのダンスみたいだが、私が一番やりたかったのは、実はジルバだったのだ。(風に吹かれて)
- ・いいえ、キチジローが言いたいのはもっと別の怖いことだったので。(沈黙)
- ・ポルトガルの三人にとっては、フェレイラは、かつての恩師でもあったのだ。(沈黙)
- ・いや、うちの紅茶がまずい理由は、母がお茶の葉っぱをケチるからだと思います。(太郎物語)
- ・スラングが辞書に出ていない理由は、一つにはある人々に不快感を与えるということであろうが、もう一つは、それらが生まれてはすぐ消え去る性質のものだからであろう。(若き数学者のアメリカ)

上の例文から分かるように、質問文「～は何ですか」に対して、その回答文としての叙述部には、①普通名詞の名詞文か、②述語に「もの」、「こと」、「の」などの形式名詞がつく文か、③その他の記号、例えば「から」がつく文などで表現されることが分かる。

「～は何ですか」に対する回答文の叙述部	①普通名詞文
	②形式名詞文
	③その他の文

### 3. 主題になる名詞の性質

本稿で論ずる「～は何ですか」の質問文に対する回答文の基本形式は『「A」は「B」です』であり、(「A」は主題の名詞、「B」は普通名詞か、形式名詞、その他)、「A」と「B」とは等しい関係にあるという判断の文である。しかし、主題の「A」の意味によって、違う形式の叙述部が現れることがある。例えば、

- (1) あの人は兄です。
- (2) 行かない理由はあしたテストだからです。

上の(1)文の主題の名詞にはその叙述部に普通名詞の述文が使われているのに対して、(2)文の主題の名詞では解釈・説明する意味をもつ助詞の「から」がつく述文が使われている。主題になる名詞には、実にさまざまなものがある。そ

して、どのような主題に、どのような述語がつくのかは、両方の意味関係の違いから分類しても数え切れないほどの組み合わせが見られる。その中、明らかになっているのは、因果関係の「原因」の意味を持つ名詞、例えば、「理由」、「原因」、「わけ」などが主題になると、叙述部に名詞（普通名詞、形式名詞）の他、接続助詞「から」などがおかれることである。例えば、

- ・小耳の川ちゃんが酒乱になった原因は女だったよ、と鯨やんがじつに嬉しそうな顔で言った。（新橋烏森口青春篇）
- ・精神病患者を収容する特殊な病院であることがその第一の理由で、第二の理由はその周りにいくつかの原っぱ、つまり空地が存在したことである。（楡家の人々）
- ・その理由はふたつあった。ひとつは、年齢的、肉体的な限界がきているのではないかということであり、他のひとつは、いつかきつとやる気を失ない、練習を厭がるようになるだろうという精神的な持続力に関してのものだった。（一瞬の夏）
- ・吉田は何時か不眠症ということについて、その原因は結局患者が眠ることを欲しないのだという学説があることを人に聞かされていた。（檸檬）
- ・脳病科という文字を脱かしたわけは、六字ではごしやごしやして読みづらかろうと懸念されたためと、勝俣秀吉の心の底にもやはり脳病科という文句をさして有難がらぬ気持がひそんでいたためであろう。（楡家の人々）
- ・少年院で飼っている豚は、養豚業者の飼っている豚より痩せていた。理由は、残飯がすくないからである。（冬の旅）
- ・その最大の原因は、彼らの担任の教師、ブスケと渾名される小柄な老人が、選りに選って、周二が時間をもてあましてぼんやりしているときに限って、神出鬼没に現われたからである。（楡家の人々）
- ・最前列にいた若いブン——若いというわけは、このブンは、ごく最近増刷された小説『ブン』のなかから抜けだしたやつだからである。（ブンとブン）

上の例文から、次のようなことが分かる。

- (1) ものごとの理由や原因について述べる文は、叙述部で文の主題は何だ、或いは何ものだを表す場合には、普通名詞や形式名詞「こと」、「もの」

などが使われる。

- (2) ものごとの理由や原因について述べる文は、叙述部で文の主題の理由や原因を説明する文の場合には形式名詞「の」、「ため」や助詞の「から」が使われる。

### 三. 中国語にける対応表現

#### 1. 日本語と中国語の表現形式

日本語において「～は何ですか」に対する回答文には、次のような基本形式で表現されることは前の節に並べた例文で明らかである。

日 本 語	主題		叙述部	
	①	「名詞」	「普通名詞」	です
	②		「～形式名詞」	
	③		その他、例えば「～」から	

日本語に対して、中国語は、[「～是什麼？」]<sup>3</sup>（～は何ですか）に対する回答文は普通名詞だけでなく、形容詞、動詞はそのままの形で[「～是什麼？」]の回答文になりうるのである。

中 国 語	主題		叙述部	
	①	「名詞」	「普通名詞」	是
	②		「形容詞」	
	③		「動詞」	

その例文は次のようである。

- ・[「這 本 書 是 什麼？」 「那 本 書 是 日語教科書。」]

(この 冊 本 である 何) (その 冊 本 である 日本語教科書)<sup>4</sup>

→この本は何ですか。 その本は日本語教科書です。

- ・[「他 是 誰？」 「他 是 這個 大學的學生。」]

(彼 である 誰) (彼 である この 大学の學生)

→あの人是谁ですか。 あの人はこの大学の學生です。

- ・[「嗜好 是 什麼？」 「嗜好 是 看電影。」]

<sup>3</sup> 中国語は[ ]括弧の中に示される。(以下同)

<sup>4</sup> 中国語の言葉のそれぞれの直訳したものは小文字で示される。(以下同)

(趣味 である 何)

(趣味 である 映画を見る)

→趣味は何ですか。趣味は映画を見ることです。

・[「去 日本 的 目的 是 什麼?」「去 日本 的 目的 是 學日語。」]

(行く 日本 の 目的 である 何)

(行く 日本 の 目的 である 日本語を習う)

→日本へ行く目的は何ですか。日本へ行く目的は日本語を習うことです。

・[「那 個 人 的 特徴 是 什麼?」]

(あの 人 の 特徴 である 何)

[「那 個 人 的 特徴 是 講話 的 速度 很 快。」]

(あの 人 の 特徴 である 話すのスピードとても速い)

→あの人の特徴は何ですか。あの人の特徴はしゃべるのが速いことです。

・[「他 的 優點 是 什麼?」「他 的 優點 是 人 很 老實。」]

(彼の 長所 である 何)

(彼の 長所 である 人とても誠実)

→彼の長所は何ですか。彼の長所は誠実であることです。

・[「生 意 失 敗 的 原因 是 什麼?」]

(商売 失敗 の 原因 である 何)

[「生 意 失 敗 的 原因 是 因為 不景氣 (的 關係)。」]<sup>5</sup>

(商売 失敗 の 原因 である から 不景氣 の 關係)

→商売失敗の原因は何ですか。不景氣だからです。

・[「缺 席 的 理由 是 什麼?」]

(欠席 の 理由 である 何)

[「缺 席 的 理由 是 因為 工作 太 忙 (的 關係)。」]

(欠席 の 理由 である から 仕事 あまりに忙しい の 關係)

→欠席した理由は何ですか。欠席した理由は仕事が忙しいからです。

中国語のこの類の回答文はいずれも叙述部で普通名詞文、形容詞文、動詞文で表現できることは、前に並べた例文で明らかになる。

## 2. 中国語話者の使用傾向

<sup>5</sup> 原因理由を説明するような文[因為～(的關係)。]、文中の[的關係]はなくても文としては成立する。



「～是什麼？」の質問文に対する回答文は中国語で普通名詞文、形容詞文、動詞文で叙述部が成り立つわけである。一方、日本語では、名詞文、或いは、例えば、原因を説明する助詞「から」のような文末に助詞がつく形で叙述部が成立する。このような形式の違いによって、中国語を母語とする学習者には、日本語の普通名詞文は違和感なしに習得できる。しかし、形式名詞文については、もともと、中国語のこの類の文の叙述部は、文末に名詞文をつけて完成する制限がないため、日本語においてのこのような表現は形式名詞を欠落する傾向がよく見られる。

それから、理由説明の「から」の構文は、主題と呼応するように文末に助詞の「から」をつけるような文型は、中国語でも似た形式が使われているため、学習者には易く理解できるものと思われる。しかし、「から」と似た役割を果たしている他の原因説明の意味をもつ形式名詞「の」、「ため」などは、やはり、学習者には馴染みにくいものと思われる。

#### 四. 結び

中国語において、「～是什麼？」の質問文に対して、その回答文の叙述部は、普通名詞文、形容詞文、動詞文だけでも文としては成り立つ。日本語もそれに対応する「～は何ですか」に対する回答文の叙述部に普通名詞文が使われた場合には、中国語と同じように普通名詞文の述文だけで表現される。しかし、日本語では形容詞文と動詞文はそのままの形で、「～は何ですか」の回答文として表現することができない。そのため、中国語を母語とする学習者にはこのような表現は文末の形式名詞を欠落する現象がよく見られる。

#### <参考文献>

小川 芳男・林 大・他編集 日本語教育学会 編(1982)『日本語教育事典』大修館書店

国立国語研究所 著(1964)『分類語彙表』秀英出版

寺村秀夫 著(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版

井口厚夫・井口裕子 著(1994)『日本語文法整理読本 解説と演習』バベル・プレス

野田尚史 著(1985)『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ1 はとが』くろし  
お出版  
名柄迪・広田紀子・中西家栄子 著(1987)『外国人のための日本語 例文・問題シ  
リーズ2 形式名詞』荒竹出版

<用例の出典>

「新潮文庫の100冊」から

『ビルマの豎琴』竹山道雄

『冬の旅』立原正秋

『檸檬』梶井基次郎

『沈黙』遠藤周作

『パニック・裸の王様』開高健

『楡家の人々』北杜夫

『太郎物語』曾野綾子

『風に吹かれて』五木寛之

『ブンとフン』井上ひさし

『新源氏物語』田辺聖子

『一瞬の夏』沢木耕太郎

『若き数学者のアメリカ』藤原正彦

『新橋烏森口青春篇』椎名誠